

国際日本研究学位プログラム(博士前期課程)

専門基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OAA3011	日本政治と市民社会1	1	1.0	1・2	春AB	金2		山本 英弘	日本の政治や市民社会に関する日本語の文献を広く講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視座から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、市民社会に関する幅広い題材を取り扱う。	01DR490と同一。
OAA3012	Japan's Politics and Civil Society 1	1	1.0	1・2	秋AB	金2		山本 英弘	日本の政治や市民社会に関する英語の文献を広く講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視座から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、市民社会に関する幅広い題材を取り扱う。	01DR491と同一。 英語で授業。
OAA3013	環境とマクロ経済学1	1	1.0	1・2	春AB	水1		生藤 昌子	本講義では持続可能な開発・経済成長の分析に必要な基礎的な経済成長理論であるソロー・スワンモデルを習得する。主に物的・人的資本蓄積、人口、生産性、技術進歩に焦点を当てて経済成長の決定要因を学び、生産要素としての自然資源の重要性を理解する。さらに経済成長が環境に影響を与え、環境の質が生産性に大きく影響するメカニズムを学ぶことにより、持続可能な開発・経済成長において人的資本蓄積と技術進歩の重要性についての理解を深めることを目標とする。	01DR256と同一。
OAA3014	The Environment and Macroeconomics 1	1	1.0	1・2	秋A	水1,2		生藤 昌子	本講義では持続可能な開発・経済成長の分析に必要な基礎的な経済成長理論であるソロー・スワンモデルを習得する。主に物的・人的資本蓄積、人口、生産性、技術進歩に焦点を当てて経済成長の決定要因を学び、生産要素としての自然資源の重要性を理解する。習得した経済成長理論をもとに様々な環境問題と持続可能な成長のための環境政策を分析・議論する能力を身につけることを目標とする。	英語で授業。
OABE001	国際日本研究のための日本語	1	1.0	1	秋AB	火1		田川 寛之	日本語で修士論文を執筆することを目指す留学生や日本語非母語話者を対象として、日本語を通じて、研究対象・研究方法をめぐる着想・着眼、資料の収集や情報の探索をめぐる適切な手法、参考文献の探し方・読み方、研究発表の望ましい方法など、研究を推進し論文を執筆するために必要な知識について講義を通じて議論し、各自の基礎的な能力開発を図る。	01DR032と同一。
OABE002	国際日本研究のための英語	1	1.0	1	秋AB	金4		田川 寛之	この授業は、英語非母語話者を主たる対象とし、修士論文や学術雑誌投稿論文を英語で執筆することを念頭におき、研究対象の設定や研究方法論、資料収集・情報探索、文献のレビュー、英文アカデミックライティングの基礎など、論文を書くために必要な知識について講義を通して議論し、各自の基礎的な能力開発を図る。	01DR033と同一。
OABE003	複合研究基礎論	1	1.0	1・2	春AB	月4		平山 朝治	さまざまな分野にまたがる研究対象に、それぞれの分野固有のディシプリンを超えてアプローチする複合研究の基礎を講義する。実証主義の限界をふまえて人間や社会が拠って立つ基礎を明らかにするものとして、フッサールの現象学やウイトゲンシュタインの言語ゲームといった20世紀西洋哲学と仏教思想・キリスト教神秘主義思想といった東西の伝統思想に通底するものを据え、それに基づいてさまざまな分野の学問・科学を再構築するようなトランス・ディシプリナリーな研究をふまえたうえで、さまざまな分野が協同して人間や社会の事象をとらえるようなインター・ディシプリナリーなアプローチを試みるものとして、複合研究を特徴づけたうえで、複合研究の例として交換や貨幣について考察する。テキストとして『平山朝治著作集 第1巻 増補 社会科学を超えて 超歴史的比較と総合の試み』（中央経済社、2009年）などを使用する。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE017	日本社会と宗教1A	1	1.0	1・2					社会の中の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集合的な原思想、原宗教を、検討対象とする。日本人論の中の、国民性、倫理観、美意識、神聖観(感)などがおもな話題となる。その背景にある、歴史的、地理的な要因について、歴史学、人類学、民俗学、神話学、言語学などの知見を活用する。明確な教義や組織のない、日本の宗教状況を、これらのゆるやかな集合体として把握することを試みる。	01DR545と同一。 2020年度開講せず。
OABE018	日本社会と宗教1B	1	1.0	1・2					社会の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集合的な原思想、原宗教を対象とする。民俗学、人文地理学、文学研究、芸術研究、異文化研究の一部が探求してきた、「懐かしさ」という感情に焦点を絞り、原風景、原体験などがおもな話題となる。ナショナリズムと一括される思想や感情を切り分けて、トランスナショナルなレベルで養護し得る要素を救い取る。とくに「深層文化としての宗教」という捉え方を軸に、日本宗教を対外的に発信する方法を工夫する。	2020年度開講せず。
OABE019	東アジアの思想と文化1	1	1.0	1・2					中国・韓国(朝鮮半島)・日本の東アジア地域は、古くから漢字文化圏、それにちなんで儒教文化圏とも呼ばれてきた。本授業では、東アジアにおける儒教思想、特に中国宋代の新儒学の勃興以降の展開と特徴を比較的な観点で考察することを目的とする。とりわけここでは、韓国の儒学思想史を対象として、壇君神話や新羅の花郎道にみえる思想的な特徴、三国時代と高麗期において仏教が思想的な主流をなしているなかでの儒学思想の展開様相と役割、そして高麗後期に受容された朱子学の展開様相などを概観する。朱子学の展開様相では、高麗・朝鮮の易姓革命をめぐる朱子学の担い手である新進士大夫たちの理念と行動、それに基づく朝鮮時代初期の官学派と士林派の葛藤と展開、その中に現れている朝鮮儒学の特徴などを考察する。	01DR549と同一。 2020年度開講せず。
OABE020	比較文学論1A	1	1.0	1・2					近現代の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業は、比較文学の手法を学ぶことによって、近・現代文学研究における新たな視野を獲得することを目的とする。多言語のテキストの精読による実証研究や、翻訳理論などを用いたテキスト研究の具体例に触れ、こうした研究に関する知識を得ることで、比較文学研究の視点を体得し、履修者の修士論文に向けての研究に生かす。	2020年度開講せず。
OABE021	比較文学論1B	1	1.0	1・2					近現代の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業では、比較文学の手法を実践的に学ぶことによって、近・現代文学研究における新たな視野を獲得することを目的とする。多言語のテキストの精読による実証研究や、翻訳理論・ジェンダー理論・ポストコロニアル理論などを用いたテキスト分析を実際に行うことにより、比較文学研究の視点を体得し、履修者の修士論文に向けての研究に生かす。「比較文学論1A」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OABE022	日本の文化と文芸1A	1	1.0	1・2					世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学古典作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。	01DR593と同一。 2020年度開講せず。
OABE023	日本の文化と文芸1B	1	1.0	1・2					世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学近代作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。「日本の文化と文芸1A」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OABE024	世界の文学・文化と日本	1	1.0	1・2					具体的な作品の分析を通して、文学・文化の研究手法と文学理論の歴史を学ぶ。	授業には、必ずテキストと配布資料を持参すること。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE026	世界の文学・文化と日本1A	4	1.0	1・2					具体的な作品の分析を通して、文学・文化の研究手法と文学理論の歴史を学ぶ。	授業には、必ずテキストと配布資料を持参すること。 2020年度開講せず。
OABE027	世界の文学・文化と日本1B	4	1.0	1・2					具体的な作品の分析を通して、現代における文学・文化の研究手法と文学理論を学び、日本文学・文化へのアプローチについて批判的な考察を行う。	授業には、必ずテキストと配布資料を持参すること。 2020年度開講せず。
OABE030	メディア研究1	1	1.0	1・2	春AB	火6		海後 宗男	この授業では、メディアとコミュニケーションの研究手法に関する文献を輪読する。主にメディア研究方法について学習する。メディアの実証研究の読み方及び実証研究を実施する際に必要になる能力を習得することを目標とする。指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。	西暦偶数年度開講。
OABE031	メディア思想と日本社会1	1	1.0	1・2					本授業はメディア研究の生成とその歴史的社会的背景を考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究にはそのような歴史的社会的背景が色濃く影響している。本授業では、メディア研究やその中の種々の理論や批評がいかんとして生まれたのかを歴史的社会的連関の中で考察し、そこから透過できる日本社会とメディア思想についての理解を深めることを目的としている。授業は適切なメディア研究と近現代日本史に関するテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。	01DR383と同一。 2020年度開講せず。
OABE032	比較メディア思想1	1	1.0	1・2	春AB	火5		白戸 健一郎	本授業は、メディア研究の生成とその歴史的社会的背景について、新聞・映画・ラジオ・テレビなどの各メディアとの比較メディア史的観点及び欧米やアジア諸国と日本との国際比較の観点から、考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究やメディアを考察するメディア思想にはそのような社会現象が強く刻印されている。メディア研究やメディア思想への考察から、社会や政治や文化の国ごとの特質や共通性について理解できるようにする。授業はメディア史やメディア思想に関する適切なテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。	西暦偶数年度開講。 01DR654と同一。
OABE033	日本語相互行為分析1	2	1.0	1・2	春AB	金3		高木 智世	「日常会話」は、言語を問わず、様々な言語使用状況の中でも最も一般的かつ根源的な社会的相互行為場面である。その「日常会話」をフィールドとして、社会学者のHarvey Sacks、Emanuel Schegloff、Gail Jeffersonらによって日常的相互行為の組織を明らかにするべく創始され、開発されたのが「会話分析」である。本授業では、会話分析の理論的背景や視点、データ収集・転写の方法およびその理論的根拠を学んだ上で、会話分析の基本的分析概念を日本語会話における具体的事例を通して理解し、会話分析の手法の基礎を身につける。人間関係や社会的関係を築く基盤となる日常会話がどのように組織されているのかを厳密に捉える視点を養うことによって、そこで生じていることを的確に、かつ、深く理解する力を身につける。	西暦偶数年度開講。
OABE034	日常会話のエスノグラフィー1	2	1.0	1・2	春AB	水4		井出 里咲子	当たり前の現象としてある「日常会話」から社会と文化に切り込む方法について学ぶ。言語人類学の会話やディスコースへのアプローチを理論的に学び、談話や会話を分析する上での方法論について考える。	西暦偶数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE042	比較政治1	1	1.0	1・2	秋AB	火3		関 能徳	比較政治の主要な概念や理論を、英語文献の精読を通して学習する。講義で扱う具体的なテーマは、政治現象の科学的研究に関する方法論、近代国家の起源、民主制と独裁、民主化などである。これらのテーマを素材に、比較政治学の主要な概念や理論を学ぶことを通して、比較政治分野での研究設計について理解を深める。	西暦偶数年度開講。01DR145と同一。
OABE043	Comparative Politics 1	1	1.0	1・2	春AB	火3		関 能徳	本講義では、比較政治学における主要な研究課題を、英文学術誌に出版された論文の精読を通して概観する。扱う研究課題は、政治体制論、体制変動論、マクロ政治システム、政党、脱工業化期の政治、政治行動論などである。これらのテーマを素材に、比較政治学の主要な概念や理論を学ぶことを通して、比較政治分野での研究設計について理解を深める。	西暦偶数年度開講。01DR144と同一。
OABE044	日本の対外関係1	1	1.0	1・2					本講義においては近現代日本の対外政策の形成過程とその背景に関する研究資料や文献を講読し、その内容への理解を深めると同時に、日本外交に関する歴史的研究の基礎的な方法論を習得する。講義内容は原則として1890年以降の日本外交を対象とするが、第二次世界大戦後のいわゆる「冷戦時代」(1940年代から90年代初頭まで)及び「ポスト冷戦時代」にウェイトを置く。主として和文文献を使用するが、必要に応じて英文資料も適宜取り上げる。「日本の対外関係2」と相互補完的な講義である。	2020年度開講せず。
OABE045	Foreign Relations of Japan 1	1	1.0	1・2	秋AB	火3		潘 亮	本講義は現代日本の対外政策の形成とその歴史的背景を、政治及び安全保障面を中心に、議論するものである。更に、現代日本の対外関係に関する歴史的な研究の方法論についても適宜議論する。本講義は1890年代以降の時代を対象とするが、第二次世界大戦終戦後の時代(1940年代後半から1980年代後半までの「冷戦期」並びに「ポスト冷戦期」)に重点を置く。講義は原則的に英語で行われる。教科書や各種資料も英語の出版物を中心に選定する。講義中、活発な議論を強く奨励する。"Foreign Relations of Japan 2"と相互補完的な講義である。	西暦偶数年度開講。
OABE046	International Relations 1A	1	1.0	1・2					国際関係の主要な理論を、英語文献を通して学習する。国際政治における対立と協調に関する論文を取り上げ、様々な角度から諸理論・アプローチを批判的に検証することを通じ、社会科学的分析能力を身に付けることを目標とする。	2020年度開講せず。
OABE047	International Relations 1B	2	1.0	1・2					国際関係の主要な理論を、英語文献を通して学習する。国際政治における対立と協調に関する論文を取り上げ、様々な角度から諸理論・アプローチを理解することにとどまらず、実際のケースに理論を応用する能力を身に付ける。また、理論の政策的なインプリケーションについても検討し、今日の国際関係との関連性を学ぶ。	2020年度開講せず。
OABE050	比較歴史教育1	1	1.0	1・2					比較教育学の理論を、その歴史的発展過程をたどりながら学ぶ。比較教育学の発展は、ヨーロッパにおける近代国民国家の形成という時代を背景に発展したことを理解するとともに、その後の学問的潮流の変遷、例えば近代化理論・実証主義・ポスト植民地主義・ポストモダン理論などとともに変化・発展してきた過程を理解する。そのことを踏まえ、21世紀のグローバル社会における共生ということテーマとした歴史教育のあり方について、日本と諸外国の事例(Comparative History Education 1ではとりあげないもの)について比較検討する。比較歴史教育1では、特に戦争など国際紛争と教育という観点から歴史教育の在り方について考察する。	2020年度開講せず。
OABE051	Comparative History Education 1	1	1.0	1・2					比較教育学の理論を、その歴史的発展過程をたどりながら学ぶ。比較教育学の発展は、ヨーロッパにおける近代国民国家の形成という時代を背景に発展したことを理解するとともに、その後の学問的潮流の変遷、例えば近代化理論・実証主義・ポスト植民地主義・ポストモダン理論などとともに変化・発展してきた過程を理解する。そのことを踏まえ、21世紀のグローバル社会における共生ということテーマとした歴史教育のあり方について、日本と諸外国の事例について比較検討する。比較歴史教育1では、特に戦争など国際紛争と教育という観点から歴史教育の在り方について考察する。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE052	計量分析1A	1	1.0	1・2	春AB	月2		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、分析に用いるデータの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計の概念について講義する。講義内容は、計量分析の概要、基礎集計(度数分布)、記述統計(代表値、散布度)など統計の基本概念を理解し、計量分析2Aを勉強するための土台作りを行う。	01DR120と同一。
OABE053	計量分析1B	2	1.0	1・2	春AB	木2		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、計量分析1Aに相当する知識(基礎集計、記述統計)をベースに、分析に用いる計量分析ツールの正しい使い方を講義する。講義内容は、統計分析用ソフトSPSS(場合によっては、エクセルを並行)を用いて、一連の分析プロセスや、SPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を学び、計量分析2Bでの高度な分析を行うための土台作りを行う。	
OABE060	応用ミクロ経済学1	1	1.0	1・2					この授業は講義形式で行う。目標として、まずミクロ経済理論の基本を理解する。そしてこの理論の経済現象への典型的な応用研究例を学ぶ。ミクロ理論の内容は、完全競争市場における家計と企業の理論及びこれらの双対理論、完全競争市場における市場均衡の性質である。これらを学んだうえで、部分均衡に関する実験経済学、需要の価格弾力性の実証研究、生産関数・費用関数の実証研究、経済厚生と租税の転嫁と帰着、国際貿易理論などの基礎的な研究例を紹介する。	01DR136と同一。 2020年度開講せず。
OABE061	Applied Microeconomics 1	1	1.0	1・2					この講義ではミクロ経済学の中級レベルの理論と、その応用が紹介される。理論のトピックスは一般均衡理論と不完全競争市場の理論からなる。この講義の目標は、これらの理論を用いて、以下の経済現象を分析することである。一般均衡理論においては、動学的なマクロ経済モデルが紹介され、それを用いて社会保障問題が検討される。不完全競争市場の理論では、企業の独占的競争理論が扱われ、それが景気循環のマクロ経済モデルに応用される。	01DR140と同一。 2020年度開講せず。
OABE064	金融1	1	1.0	1・2					この講義の目的は、金融論の基本的議論を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。本講義では、特に、債権・債務関係、貨幣および決済の視点を中心に、各種の金融問題を整理する。金融1は、日本の銀行システムの歴史的な形成過程や機能について学ぶ。高度成長期、バブル経済の崩壊、非伝統的金融政策について概観する。親子講義や模合等の民間金融の世界についても触れる。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。例えば、プレゼンテーションを行ってもらったうえで、期末レポートとしてまとめてもらう。	01DR205と同一。 2020年度開講せず。
OABE065	日本経済発展論	1	1.0	1・2	春C	集中		高橋 秀直	この講義の目的は、19世紀から現在までの日本経済の発展について学ぶことである。本講義では、特に、中心国と周辺国間の非対称的な国際関係の視点から、19世紀の日本経済がグローバル経済に参入する際に直面した課題を検討する。現在の日本は世界経済をけん引する国の一つとなったが、19世紀末においては、当時のグローバル経済に関わり始めたばかりの新興国の一つであった。当時の日本経済の経験を学ぶことは、現在のグローバル経済に関わらざるを得ない新興国にとっても有益な示唆を与えるであろう。参加者には、中心国と周辺国の非対称的な関係という視点から、ある国の歴史的な発展過程を検討する課題が与えられる。	01DR262, 01DZ140と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	
OABE066	世界経済史1		1	1.0	1・2				グローバル経済の展開を歴史的にみる観点から、各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について、参加者が文献研究報告ないし論文準備報告を行い、議論を行う。報告では、A4で4枚程度のレジュメないし原稿を用意して発表し、口頭報告や質疑に対する応答演習を行う。さらに論文の問題意識や論理構成、資料収集とその分析等について、コメント、質疑応答、全員の議論を通じて内容を深めていく。修士論文の完成に向かって、論文の問題意識をまとめ、先行研究をサーベイし、収集した資料のまとめと分析を進めながら、論文執筆を行っていくための基盤とする。	2020年度開講せず。	
OABE067	Comparative Labor Studies 1		1	1.0	1・2				受講生全員が論文準備報告を行い、経済活動の基盤となる労働関係について比較歴史分析の視点から少人数で議論を行う。参加者はA4で4~6枚程度のレジュメないし原稿を用意して発表し(日本語ないし英語)、論文の問題意識や論理構成、資料等について、コメント、質疑応答、全員の議論を通じて内容を深めていく。修士論文の完成に向かって、論文の問題意識をまとめ、先行研究をサーベイし、収集した資料のまとめと分析を進めながら、論文執筆を行っていく。	2020年度開講せず。	
OABE068	地域経済・経営史1A		1	1.0	1・2	春A	木5,6	1B204	平沢 照雄	本授業はグローバル競争時代の地域企業経営およびその課題について深く理解する前提として、グローバル競争以前の経営・事業展開を歴史的に検討することを目標とする。特に本授業では、地域経済の発展に貢献することを強く意識した「地域貢献型企業」に着目し、創業からその後の事業展開を歴史的に検討することを主なテーマとする。授業では、毎回、注目される研究事例・文献等を取り上げ、それについてまず教員が近年の研究動向を踏まえつつ重要点を説明する。さらに教員が一方向的に講義を行うのではなく、受講生の報告と討論も取り入れる形で授業を進める予定である。	西暦偶数年度開講。
OABE069	地域経済・経営史1B		2	1.0	1・2				本授業はグローバル競争時代における地域産業の衰退あるいは再生・活性化について深く理解する前提として、グローバル競争以前の地域産業の発展および産業集積の形成・展開について歴史的に検討することを目標とする。特に本授業では、都市型産業集積、企業城下町型産業集積、産地型産業集積の3つのタイプに着目し、それらの集積の特徴と形成・発展過程について歴史的に検討することを主なテーマとする。授業では、毎回、注目される研究事例・文献等を取り上げ、それについてまず教員が近年の研究動向を踏まえつつ重要点を説明する。さらに教員が一方向的に講義を行うのではなく、受講生の報告と討論も取り入れる形で授業を進める予定である。	2020年度開講せず。	
OABE070	Media Research 1		1	1.0	1・2	秋AB	火6		海後 宗男	この授業は英語でメディアに関する研究方法を学習する。実証研究における分析手法を学ぶ。多変量解析などの活用方法を理解できるようになる。この授業では、指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。	西暦偶数年度開講。
OABE071	移民研究・国際人口移動論1		2	1.0	1・2				移民・難民など現代の国際人口移動に関する現状、理論、政策、政治、ガバナンス、市場経済等について、政治学・国際関係論の観点・命題を中心に学際的に考察する。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなうほか、時事的なケーススタディをもとに議論を深める。	2020年度開講せず。	
OABE072	Migration and Multicultural Studies 1		2	1.0	1・2				移民・難民など現代の国際人口移動と日本社会の「多文化」化に関する現状、理論、政策、政治、ガバナンス、市場経済等について、政治学・国際関係論の観点・命題を中心に学際的な考察を加える。おもに、この分野における主要基本文献(英語)の精読と解題をおこなうほか、時事的なケーススタディをもとに議論を深める。	2020年度開講せず。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE073	法と市民社会1A		1	1.0	1・2				近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。	01DR233と同一。 2020年度開講せず。
OABE074	法と市民社会1B		2	1.0	1・2				近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A」とは異なるトピックスを扱う。	01DR234と同一。 2020年度開講せず。
OABE075	法と現代社会1A		1	1.0	1・2				法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、生殖医療、義務教育、校則、少年犯罪、就職活動等、現代日本の社会問題について法的な観点から講義した上で、質疑応答を行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	01DR241と同一。 2020年度開講せず。
OABE076	法と現代社会1B		2	1.0	1・2				法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、労働法、死刑制度、環境問題、多重債務者、安楽死・尊厳死、相続等、現代日本の社会問題について法的な観点から講義した上で、質疑応答を行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	01DR242と同一。 2020年度開講せず。
OABE080	日本語会話教育法		2	1.0	1	春AB	水2	関崎 博紀	日本語の会話技術を指導する際に留意すべき点を考える。まず、会話能力の構成概念の検討、それに関する先行研究の講読、及び、習得理論上での位置づけの検討を行う。その上で、受講生を学生に見立てた教壇実習と振り返りを行い、習得を促進させるのに必要な先鋭的取り組みを生み出す。	
OABE081	文章表現研究		2	1.0	1	秋C	応談	木戸 光子	文章・談話研究の中で日本語教育に関連の深いテーマを取り上げて、日本語の文章・談話の構造や表現について知見を深め、分析・記述の方法を学ぶことを目標とする。授業では、日本語教育に関連する基礎的な文献や最新の文献を取り上げ、文献講読と質疑応答、文章・談話の分析を行う。文献講読では類似したテーマの論文を比較し、批判的に検討する。文献講読はスライドを用いた口頭発表、文章表現分析課題はポスター発表とし、受講者の日本語による表現力の向上も目指す。	01DR721と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE082	応用会話分析研究	2	1.0	1	春C	月5,6		ブッシュネル ケード コンラン	言語研究の中でも、20世紀後半から発達した、話者と聴者のコミュニケーションを扱う伝統的語用論研究、事態の認識方法に関わる認知言語学、人間関係維持を重んじたポライトネス理論の研究内容や手法を学ぶ。認知に関わる言語の主観性表現や、聴者や発話の場を鑑みた表現方法について、予め決められた発表者が該当論文を紹介する。発表者は論文の要旨を述べ、疑問点や議論したいテーマを設定する。それを受けて、受講者は具体的例を挙げながら、議論し、日本語教育上の問題点や、日本語教育への応用を考える。「日本語語用論研究」とは異なるトピックスを扱う。	01DR718と同一。
OABE083	日本語教育と社会言語学	2	1.0	1	春AB	金2		ルート ヴァン バーレン	急変する社会の中でことばがどのように変化し、その変化がコミュニケーションへどのような影響を与えるかを考える。他言語にも触れながら、主に日本の社会と日本語との関連を扱う文献を通して社会言語学の手法を学ぶ。受講者が順番に自らの興味に合ったテーマの研究論文を選択し、研究内容を発表し、有益なポイントと疑問点を述べる。受講者全員と議論しながら、日本語教育上の問題点や、日本語教育への応用を考える。授業での使用言語(日本語・英語)は受講者と相談のうえで決める。	
OABE084	日本語教育原論	2	1.0	1	春AB	水5		関崎 博紀, 小野 正樹, 伊藤 秀明, 井出 里咲子, 高木 智世, ブッシュネ ル ケード コンラ ン, ルート ヴァン バーレン, 文 祖允	日本語教育領域に関連する基礎的な知識を学ぶと同時に、日本語学習者、日本語教室、教材開発、日本語の文法・会話・作文・読解・聴解などの技能別指導方法、日本の社会や文化、異文化コミュニケーション、会話分析、語用論などの観点から日本語教育現場への応用について学ぶ。授業担当は日本語教育学コースを担当する教員がオムニバスで担当する。	
OABE085	日本語教育評価法	2	1.0	1	春AB	水6		関崎 博紀, 伊藤 秀明, 小野 正樹, 井出 里咲子, 高木 智世, ブッシュネ ル ケード コンラ ン, ルート ヴァン バーレン, 文 祖允	日本語教育原論と連動する形で、日本語教育原論で学んだ指導方法をもとに、評価やテストニングについて考える。日本語の文法・会話・作文・読解・聴解、日本の社会や文化、異文化コミュニケーション、社会言語学、会話分析、語用論などの観点を踏まえつつ、学習効果の評価がいかにか可能であるかを、テストの作成、インタビューやポートフォリオ作成といった実践を通して学ぶ。授業担当は日本語教育学コースを担当する教員がオムニバスで担当する。	01DR717と同一。



科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE086	日本語教育のための音声学・音韻論	4	1.0	1・2	春AB	火3		文 昶允	日本語音声学・音韻論の基礎知識を身に着けるとともに、日本語教育への応用を目指す。授業では、日本語音声学・音韻論の基礎力・応用力を養うために、関連する文献講読および討論を行う。	

専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE301	リサーチ・プログラム開発2	2	2.0	1	春AB	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タツク, 小野 正樹, 崔 宰栄, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァンバーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1」とは別のものでなくてはならない。	01DR062と同一。
OABE302	リサーチ・プログラム開発3	2	2.0	1	秋AB	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タツク, 小野 正樹, 崔 宰栄, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァンバーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2」とは別のものでなくてはならない。	01DR063と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE303	リサーチ・プログラム開発4	2	2.0	1	秋AB	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗状況について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がいる。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3」とは別のものでなくてはならない。	01DR064と同一。
OABE310	日本社会と家1	1	1.0	1・2	秋AB	月4		平山 朝治	日本の伝統的な家業経営体であるイエの構造、その組織原理としての特性やイエが育む個人主義を歴史比較制度分析の視点からとらえることを目指す。イエとは何か、氏(ウジ)からイエへ、イエ社会の経済秩序、イエの普及と資本主義の発達、イエ社会の産業化、イエ社会と「外部」の人々、といった論点を、平山朝治『イエ社会と個人主義:日本型組織原理の再検討』(日本経済新聞社、1995年)をテキストとして講義する。	西暦偶数年度開講。 01DR325と同一。
OABE311	韓国社会と家1	1	1.0	1・2	春AB	火5		巖 錫仁	韓国社会における「家」について他文化圏との比較考察を交えつつ学ぶ。韓国の「家」は、伝統的に儒教思想の強い影響下にあったが、植民地の時代を経ながら、また近代化の進行の中で変貌を余儀なくされている。現代においては高齢化問題、少子化問題の深刻化が進み、政治・社会・経済の変動にともなう、老父母扶養の問題、夫婦間の役割問題、親子間の価値観問題なども顕在化している。この授業では、朝鮮時代を中心とする韓国の伝統的な「家」像と、近代化の過程で現れている「家」の現住所について、家族制度、家族倫理、家庭教育といった側面から、他文化圏との比較考察を交えつつ、その模様を考察する。韓国の家族制度、家族倫理、家庭教育に関する原典資料および研究書・論文を読みながら、討議・説明する。	西暦偶数年度開講。 01DR305と同一。
OABE314	日本古典文化と身体1	1	1.0	1・2					東洋思想では気をもって人間の身体を説明し、その関連で養生論を発達させてきた。広く東洋思想の中の気論・養生論を概観しながら、日本の古典に現れる気・養生論の特徴を考察する。この授業を通して、東洋思想の中の気論、養生論について知識を広め、日本的な気論と養生論の特徴を理解する。東洋思想と日本思想の中の気論、養生論に関する原典資料および研究書・論文を読みながら、討議・説明する。特に貝原益軒の『養生訓』について詳論する。	01DR350と同一。 2020年度開講せず。
OABE315	アイドルと社会経済	1	1.0	1・2	春AB	月5		平山 朝治	比較歴史制度分析の観点から日本のアイドルの特質を明らかにし、明治以降の日本経済の長期波動とアイドル・ブームの関係を、映像・音源を視聴しながら検討することを通して、現代日本の社会経済と文化についての洞察を深めることをめざす。平山朝治「アイドル150年:アイドル・ブームと長期波動」『経済学論集』70号、2018年、 <a href="http://doi.org/10.15068/00150843">http://doi.org/10.15068/00150843</a> などをテキストとして講義する。	01DR394と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE316	翻訳からみた日本と東アジアの文化1	1	1.0	1・2					漢字・漢文は日本語・日本文化の形成と発展にとって二重的構造を持つ他者である。この授業では、固有の日本語に対する「漢語」、大陸の文化を受け入れるために独自に発展させてきた「訓読」、そして明治期の西洋文明の導入における「翻訳」を対象として、日本文化における漢字・漢文・翻訳の問題の諸相を考察する。荻生徂徠の『訳文筌蹄』をはじめとして、これらの問題に関わる研究書や論文を紹介し一緒に読みながら、討議・説明していく。	01DR422と同一。 2020年度開講せず。
OABE317	日本の精神文化と翻訳1	1	1.0	1・2					学術用語、文化用語としての日本語は、地域言語として、古くは中国語、新しくは欧米諸語、現在はほぼ英語という、世界言語に従属する形で、それらのキーワードを直輸入、翻訳、修正しながら、知的営みを積み重ねてきた。そのうち、明治以降の欧米諸語の輸入、翻訳に焦点を絞り、いくつかの問題点を再検討する。とくに、翻訳語と思われるキーワードのうち、日本オリジナルのものがあることに注目して、その成立の経緯を考察する。	01DR423と同一。 2020年度開講せず。
OABE318	日本社会と宗教2A	1	1.0	1・2	春AB	火4		津城 寛文	社会の中の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集合的な原思想、原宗教を、検討対象とする。日本人論の中の、国民性、倫理観、美意識、神聖観(感)などがおもな話題となる。その背景にある、歴史的、地理的な要因について、歴史学、人類学、民俗学、神話学、言語学などの知見を活用する。明確な教義や組織のない、日本の宗教状況を、これらのゆるやかな集合体として把握することを試みる。「日本社会と宗教1A」とは異なるトピックスも扱う。	西暦偶数年度開講。 01DR547と同一。
OABE319	日本社会と宗教2B	1	1.0	1・2	秋AB	火4		津城 寛文	社会の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集合的な原思想、原宗教を対象とする。民俗学、人文地理学、文学研究、芸術研究、異文化研究の一部が探求してきた、「懐かしさ」という感情に焦点を絞り、原風景、原体験などがおもな話題となる。ナショナリズムと一括される思想や感情を切り分けて、トランスナショナルなレベルで養護し得る要素を救い取る。とくに「深層文化としての宗教」という捉え方を軸に、日本宗教を対外的に発信する方法を工夫する。「日本社会と宗教1B」とは異なるトピックスも扱う。	西暦偶数年度開講。
OABE320	東アジアの思想と文化2	1	1.0	1・2	秋AB	火5		巖 錫仁	中国・韓国(朝鮮半島)・日本の東アジア地域は、古くから漢字文化圏、それにちなんだ儒教文化圏とも呼ばれてきた。本授業では、東アジアにおける儒教思想、特に中国宋代の新儒学の勃興以降の展開と特徴を比較的な観点で考察することを目的とする。とりわけここでは、「朝鮮半島と日中の思想文化1A」に引き続き、朝鮮時代の中期以後の儒学思想を概観する。李退溪と李栗谷に代表される朝鮮朱子学の定立と分化の様相、彼らの登場以後展開される嶺南学派と畿湖学派の対立、四七論争、人心道心論争、礼学論争、人物性同異論争などの朝鮮儒学の思想的争点を概観し、朱子学に反対した実学の思想的特徴を考察する。ここでは江戸の古文辞学と清朝の考証学との比較を取り上げる。	西暦偶数年度開講。
OABE321	日本文化と経済思想1	1	1.0	1・2	秋AB	月4		平山 朝治	日本の文明化のプロセスと日本文明の特性を、比較歴史制度分析の視点からとらえることを目指す。自由民による支配者選択の伝統、華帝国の藩王としての大王、聖徳太子とは何者か、国家神道は護国仏教の邦訳版、仏教による荒ぶる神々の鎮撫、普遍と特殊が天皇制で交錯する、思想史的巨人としての空海、怒しの契機を孕む怨霊思想、荘園制の下での文明の成熟、日本的なタテ関係の「やさしさ」、慈悲は法より優先される、産業発展の求心性という伝統、一揆と革命の違い、神道は「日本らしい」か、「日本らしさ」の現代的意味、といった論点を、平山朝治『「日本らしさ」の地層学』(情況出版、1993年、 <a href="http://hdl.handle.net/2241/00126546">http://hdl.handle.net/2241/00126546</a> )をテキストとして講義する。	西暦偶数年度開講。 01DR559と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE322	比較文学論2A	1	1.0	1・2	春AB	木4		平石 典子	近現代の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業は、比較文学の手法を学ぶことによって、近・現代文学研究における新たな視野を獲得することを目的とする。内外の研究者による、ジェンダー理論やポストコロニアル理論を用いたテキスト研究の具体例に触れ、こうした研究に関する知識を得ることで、比較文学研究の視点を体得し、履修者の修士論文に向けての研究に生かす。「比較文学論1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 01DR583と同一。
OABE323	比較文学論2B	1	1.0	1・2	秋AB	木4		平石 典子	近現代の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業では、演習形式によって、比較文学の手法を実践的に学ぶことによって、近・現代文学研究における新たな視野を獲得することを目的とする。多言語のテキストの精読による実証や、翻訳理論・ジェンダー理論・ポストコロニアル理論などを用いたテキスト分析を実際に行うことにより、比較文学研究の視点を体得し、履修者の修士論文に向けての研究に生かす。「比較文学論1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OABE324	日本の文化と文芸2A	1	1.0	1・2	春AB	月4		石塚 修	世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学古典作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。「日本の文化と文芸1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 01DR595と同一。
OABE325	日本の文化と文芸2B	1	1.0	1・2	秋AB	月4		石塚 修	世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学の近代作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。「日本の文化と文芸1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OABE326	世界の文学・文化と日本2A	4	1.0	1・2	春AB	月2		江口 真規	動物と人間の関係についての学際研究「アニマル・スタディーズ」の理論と方法を学び、主要なテキストの講読を通して、文学・文化研究での事例を考察する。	授業には、必ずテキストと配布資料を持参すること。 西暦偶数年度開講。
OABE327	世界の文学・文化と日本2B	4	1.0	1・2	秋AB	月2		江口 真規	アニマル・スタディーズの理論と方法を概観したうえで、動物に関わる作品を講読し、世界や日本の文学・文化を人と動物の関係から考察する。	授業には、必ずテキストと配布資料を持参すること。 西暦偶数年度開講。
OABE330	メディア研究2	1	1.0	1・2					この授業では、メディアとコミュニケーションの研究方法に関する文献を輪読する。主にメディア研究方法について学習する。メディアの実証研究の読み方及び実証研究を実施する際に必要になる能力を習得することを目標とする。指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修者と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。「メディア研究1」とは異なるトピックスを扱う。	01DR388と同一。 2020年度開講せず。
OABE331	メディア思想と日本社会2	1	1.0	1・2					本授業はメディア研究の生成とその歴史的社会的背景を考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究にはそのような歴史的社会的背景が色濃く影響している。本授業では、メディア研究やその中の種々の理論や批評がいかんして生まれたのかを歴史的社会的連関の中で考察し、そこから透過できる日本社会とメディア思想についての理解を深めることを目的としている。授業は適切なメディア研究と近現代日本史に関するテキストを選別し、担当箇所を受講者が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつづいて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。「メディア思想と日本社会1」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE332	比較メディア思想2	1	1.0	1・2	秋C	金5,6		白戸 健一郎	本授業は、メディア研究の生成とその歴史的社会的背景について、新聞・映画・ラジオ・テレビなどの各メディアとの比較メディア史的観点及び欧米やアジア諸国と日本との国際比較の観点から、考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究やメディアを考察するメディア思想にはそのような社会現象が強く刻印されている。メディア研究やメディア思想への考察から、社会や政治や文化の国ごとの特質や共通性について理解できるようになる。授業はメディア史やメディア思想に関する適切なテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつづじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。「比較メディア思想1」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。01DR384と同一。
OABE333	日本語相互行為分析2	2	1.0	1・2					近年、会話分析や相互行為言語学の手法を用いた研究によって、日本語という言語に用意されている言語資源(語順、助詞、省略、フィラーなど)が、日本語を用いた相互行為の組織にどのように利用されているかが次々に明らかにされている。本講義では、これらの研究論文を精読し、その手法や知見を理解する。その上で、相互行為分析の対象として未だ取り上げられていない日本語現象について会話分析的な分析を行い、新たな知見を引き出すことを試みる。この作業を通して、言語が根源的に社会的なものであることの理解を深める。	2020年度開講せず。
OABE334	日常会話のエスノグラフィ2	2	1.0	1・2					当たり前の現象としてある「日常会話」から社会と文化に切り込む方法について学べる。言語人類学の会話やディスコースへのアプローチを理論的に学び、談話や会話を分析する上での方法論について考える。「日常会話のエスノグラフィ1」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OABE340	日本政治と市民社会2	2	1.0	1・2					「日本政治と市民社会1」に引き続き、日本の政治や市民社会に関する日本語の文献を講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視点から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、国家と市民社会との関係に焦点を合わせて議論する。	2020年度開講せず。
OABE341	Japan's Politics and Civil Society 2	2	1.0	1・2					“Japan's Politics and Civil Society 1”に引き続き、日本の政治や市民社会に関する英語の文献を講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視点から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、国家と市民社会との関係に焦点を合わせて議論する。	2020年度開講せず。
OABE342	比較政治2	2	1.0	1・2					「比較政治1」に引き続き、比較政治の主要な概念や理論を、英語文献の精読を通して学習する。講義で扱う具体的なテーマは、議会制と大統領制、選挙制度、政党システムなどである。これらのテーマを素材に、比較政治学の主要な概念や理論を学ぶことを通して、比較政治分野での研究設計について理解を深める。	2020年度開講せず。
OABE343	Comparative Politics 2	2	1.0	1・2					本講義では、比較政治学における研究方法と理論構築について集中的に学ぶ。比較研究を行う際に直面する専門用語、方法、論争、課題に慣れ親しめるよう、本講義は設計されている。講義で扱う具体的なテーマは、理論構築と検証、観察研究、因果関係と説明、少数事例研究、混合研究法、概念と操作化、比較歴史研究などである。これらのテーマを素材に、比較政治学の主要な概念や理論を学ぶことを通して、比較政治分野での研究設計について理解を深める。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE344	日本の対外関係2	2	1.0	1・2					本講義においては近現代日本の対外政策の形成過程とその背景に関する研究資料や文献を講読し、その内容への理解を深めると同時に、日本外交に関する歴史的研究の基礎的な方法論を習得する。講義内容は原則として1890年以降の日本外交を対象とするが、第二次世界大戦後のいわゆる「冷戦時代」(1940年代から90年代初頭まで)及び「ポスト冷戦時代」にウェイトを置く。主として和文文献を使用するが、必要に応じて英文資料も適宜取り上げる。「日本の対外関係1」を併せて履修すること。	01DR317と同一。 2020年度開講せず。
OABE345	Foreign Relations of Japan 2	2	1.0	1・2	秋AB	火4		潘 亮	本講義は現代日本の対外政策の形成とその歴史的背景を、政治及び安全保障面を中心に、議論するものである。更に、現代日本の対外関係に関する歴史的な研究の方法論についても適宜に議論する。本講義は1890年代以降の時代を対象とするが、第二次世界大戦終戦後の時代(1940年代後半から1980年代後半までの「冷戦期」並びに「ポスト冷戦期」)に重点を置く。講義は原則的に英語で行われる。教科書や各種資料も英語の出版物を中心に選定する。講義中、活発な議論を強く奨励する。なお、本講義を履修するには「Foreign Relations of Japan 1」も併せて履修することが必要である。	西暦偶数年度開講。 01DR318と同一。
OABE346	International Relations 2A	1	1.0	1・2	秋AB	木2		大友 貴史	国際関係の主要な理論を、英語文献を通して学習する。国際政治における対立と協調に関する論文を取り上げ、様々な角度から諸理論・アプローチを批判的に検証することを通じ、社会科学的分析能力を身に付ける。また、理論検証に関する文献も読むことを通じ、理論全般における理解を深める。	西暦偶数年度開講。
OABE347	International Relations 2B	2	1.0	1・2	春AB	火3		大友 貴史	国際関係の主要な理論を、英語文献を通して学習する。国際政治における対立と協調に関する論文を取り上げ、様々な角度から諸理論・アプローチを理解することにとどまらず、実際のケースに理論を応用する能力を身に付ける。また、理論の政策的なインプリケーションについても検討し、理論が国際関係を理解する上で、どの程度役立つかあるいは妨げとなるかも検証する。	西暦偶数年度開講。
OABE350	比較歴史教育2	2	1.0	1・2	春AB	火5		柴田 政子	比較歴史教育1で習得した内容をもとに、理論からより具体的事例に議論と考察を発展させる。具体例は、履修者の研究テーマおよび関心事例を中心に、Comparative History Education 2では取り上げないものを、日本及び諸外国の事例から選択する。比較歴史教育1では、特に戦争など国際紛争と教育という観点から歴史教育の在り方について考察したが、比較歴史教育2では、主にアフリカやアジア・ラテンアメリカで展開されてきた植民地支配の歴史を中心に扱い、特に発展途上国における歴史教育の在り方について考察する。	西暦偶数年度開講。
OABE351	Comparative History Education 2	2	1.0	1・2	秋AB	火5		柴田 政子	“Comparative History Education 1”で習得した内容をもとに、理論からより具体的事例に議論と考察を発展させる。具体例は、履修者の研究テーマおよび関心事例を中心に、日本及び諸外国の事例から選択する。“Comparative History Education 1”では、特に戦争など国際紛争と教育という観点から歴史教育の在り方について考察したが、“Comparative History Education 2”では、主にアフリカやアジア・ラテンアメリカで展開されてきた植民地支配の歴史を中心に扱い、特に発展途上国における歴史教育の在り方について考察する。	西暦偶数年度開講。
OABE352	計量分析2A	1	1.0	1・2	春AB	月3		崔 幸栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、分析に用いるデータの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計の概念について講義する。講義内容は、計量分析1Aで学んだ知識(基礎集計、記述統計)を土台とし、関連分析(相関分析、回帰分析)を中心とした、計量分析の入門的な概念を理解し、発展させる。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE353	計量分析2B	2	1.0	1・2	春AB	木3		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、計量分析2Aに相当する知識(相関分析、回帰分析)をベースに、分析に用いる計量分析ツールの正しい使い方を講義する。講義内容は、統計分析用ソフトSPSS(場合によっては、エクセルを並行)を用いて、計量分析1Bで学んだSPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を土台とし、高度な分析(相関分析、回帰分析、因子分析、各種検定など)を行う。	01DR123と同一。
OABE360	応用ゲーム理論1	2	1.0	1・2	春AB	火3		福住 多一	この授業は講義形式で行う。目標として、まずゲーム理論の最も基本的な概念を理解する。そしてこれらのゲーム理論の社会・経済現象への典型的な応用研究例を学ぶ。ゲーム理論の内容は、期待効用理論、戦略形ゲームと展開形ゲームによるゲームの表現、ナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡の概念である。これらを学んだ上で、社会・経済慣行の形成を分析する協調ゲームの実験、寡占市場の企業の戦略的行動の理論、ネットワーク形成の理論モデルなどの研究例を紹介する。	西暦偶数年度開講。
OABE361	Applied Game Theory 1	2	1.0	1・2	秋AB	火3		福住 多一	この講義では、無限繰り返しゲーム、不完備情報ゲーム、そして進化ゲームの理論を紹介する。これらのトピックは、中級非協力ゲーム理論に相当する。この講義の目標は、これらの理論を用いて、以下の社会・経済現象を分析することである。無限繰り返しゲームにおいては、組織内の長期契約と寡占市場における企業間の暗黙の結託の可能性が検討される。不完備情報ゲームにおいては、プレイヤーたちの間の共有知識の構造と、労働市場におけるシグナリング行動が扱われる。進化ゲーム理論においては、限定合理的プレイヤーの適応的な行動の集計量が近づいていく安定的な社会状態について学ぶが、これはその社会の社会慣習や文化の経済分析である。	西暦偶数年度開講。
OABE362	環境とマクロ経済学2	2	1.0	1・2					本講義では持続可能な開発・経済成長の分析に必要な基礎的な経済成長理論であるソロー・スワンモデルを習得する。経済成長の基本要因を学んだ上で、貧困、所得分布、文化・社会、地理的要因に焦点を当てて経済成長の各国間の差異の決定要因について理解する。さらに気候変動による生産性の変化や自然災害などについても検討する。経済成長の限界、あるいは持続可能な開発・経済成長について問題点を把握し経済学的視点から議論する能力を身につけることを目標とする。	2020年度開講せず。
OABE363	The Environment and Macroeconomics 2	2	1.0	1・2					本講義では持続可能な開発・経済成長の分析に必要な基礎的な経済成長理論であるソロー・スワンモデルを習得する。経済成長の基本要因を学んだ上で、貧困、所得分布、文化・社会、地理的要因に焦点を当てて経済成長の各国間の差異の決定要因について理解する。さらに気候変動による生産性の変化や自然災害などについても検討する。習得した経済成長理論をもとに様々な環境問題と持続可能な成長のための環境政策を分析・議論する能力を身につけることを目標とする。	01DR255と同一。 2020年度開講せず。
OABE364	金融2	2	1.0	1・2	秋AB	水4		高橋 秀直	この講義の目的は、金融論の基本的講義を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。本講義では、特に、債権・債務関係と決済の視点を中心に、各種の金融問題を整理する。金融2は、日本と国際金融システムの関わりを中心に学ぶ。具体的には、金本位制やブレトンウッズ体制などの国際金融制度、あるいは大恐慌やアジア金融危機等の国際金融危機について一通り学ぶ。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。例えば、プレゼンテーションを行ってもらったうえで、期末レポートとしてまとめてもらう。	西暦偶数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE365	世界経済史2		2	1.0	1・2	秋AB	水3	田中 洋子	グローバル経済の展開を歴史的にみる観点から、各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について、参加者が文献研究報告ないし論文準備報告を行い、議論を行う。報告では、A4で4枚程度のレジュメないし原稿を用意して発表し、口頭報告や質疑に対する応答演習を行う。さらに論文の問題意識や論理構成、資料収集とその分析等について、コメント、質疑応答、全員の議論を通じて内容を深めていく。修士論文の完成に向かって、論文の問題意識をまとめ、先行研究をサーベイし、収集した資料のまとめと分析を進めながら、論文執筆を行っていくための基盤とする。	西暦偶数年度開講。
OABE366	Comparative Labor Studies 2		2	1.0	1・2	春AB	水3	田中 洋子	受講生全員が論文準備報告を行い、経済活動の基盤となる労働関係について比較歴史分析の視点から少数で議論を行う。参加者はA4で4~6枚程度のレジュメないし原稿を用意して発表し(日本語ないし英語)、論文の問題意識や論理構成、資料等について、コメント、質疑応答、全員の議論を通じて内容を深めていく。修士論文の完成に向かって、論文の問題意識をまとめ、先行研究をサーベイし、収集した資料のまとめと分析を進めながら、論文執筆を行っていく。	西暦偶数年度開講。
OABE367	地域経済・経営史2A		1	1.0	1・2	秋A	木5,6	平沢 照雄	本授業はグローバル競争下における地域企業経営および事業展開を、それ以前の展開と対比させつつ検討することを目標とする。特に本授業では、地域経済の発展に貢献することを強く意識した「地域貢献型企業」に着目し、それらの企業がグローバル競争下にどのような問題に直面したか、それに対してどのような改革・取り組みを展開しているかについて検討することを主なテーマとする。授業では、毎回、注目される研究テーマ・事例・文献等を取り上げ、それについてまず教員が近年の研究動向を踏まえつつ重要点を説明する。さらに教員が一方的に講義を行うのではなく、受講生の報告と討論も取り入れる形で授業を進める予定である。「地域経済・経営史1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OABE368	地域経済・経営史2B		2	1.0	1・2				本授業はグローバル競争下における地域産業の衰退あるいは再生・活性化に関して、グローバル競争に突入する以前の地域産業あるいは産業集積の発展と対比させつつ検討することを目標とする。特に本授業では、都市型産業集積、企業城下町型産業集積、産地型産業集積の3つのタイプに着目し、グローバル競争下における産業構造の変化や直面する課題、地域・集積内で取り組まれている再生策(産学連携等)について検討することを主なテーマとする。授業では、毎回、注目される研究テーマ・事例・文献等を取り上げ、それについてまず教員が近年の研究動向を踏まえつつ重要点を説明する。さらに教員が一方的に講義を行うのではなく、受講生の報告と討論も取り入れる形で授業を進める予定である。「地域経済・経営史1B」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OABE370	Media Research 2		1	1.0	1・2				この授業は英語でメディアに関する研究方法を学習する。実証研究における分析手法を学ぶ。多変量解析などの活用方法を理解できるようになる。この授業では、指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。「Media Research 1」とは異なるトピックスを扱う。	01DR390と同一。 2020年度開講せず。
OABE371	移民研究・国際人口移動論2		2	1.0	1・2	春AB	火6	明石 純一	移民・難民など現代の国際人口移動に関する現状、理論、政策、政治、ガバナンス、市場経済等について、社会学の観点・命題を中心に学際的な考察を加える。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなうほか、時事的なケーススタディをもとに議論を深める。	西暦偶数年度開講。
OABE372	Migration and Multicultural Studies 2		2	1.0	1・2	秋AB	火6	明石 純一	移民・難民など現代の国際人口移動と日本社会の「多文化」化に関する現状、理論、政策、政治、ガバナンス、市場経済等について、社会学の観点・命題を中心に学際的な考察を加える。おもに、この分野における主要基本文献(英語)の精読と解題をおこなうほか、時事的なケーススタディをもとに議論を深める。	西暦偶数年度開講。



科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE373	法と市民社会2A	1	1.0	1・2	春AB	応談		根本 信義	近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 01DR237と同一。
OABE374	法と市民社会2B	2	1.0	1・2	秋AB	応談		根本 信義	近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 01DR238と同一。
OABE375	法と現代社会2A	1	1.0	1・2	春AB	木3		宮坂 涉	法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、生殖医療、義務教育、校則、少年犯罪、就職活動等、現代日本の社会問題について法的な観点からディスカッションを行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	西暦偶数年度開講。 01DR243と同一。
OABE376	法と現代社会2B	2	1.0	1・2	秋C	応談		宮坂 涉	法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、労働法、死刑制度、環境問題、多重債務者、安楽死・尊厳死、相続等、現代日本の社会問題について法的な観点からディスカッションを行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	西暦偶数年度開講。 01DR244と同一。
OABE380	日本語教育研究概論	2	1.0	1	秋AB	水5		文 昶允, 伊藤 秀明, 小野 正樹, 高木 智世, ブッシュネル ケード コンラン, 関崎 博紀, ルート ヴァンパーレン	日本語教育原論での基礎知識を踏まえ、日本語教育に関する研究論文を書くための講義をオムニバス形式で行う。コース前半では、研究論文を書く方法として、先行研究批判方法や、オリジナリティと論理性の示し方、調査方法、引用、剽窃、データの扱い方を講義する。その上で、教員の専門性を伝えるべく、文章・談話研究の方法、自然会話研究の方法、ポライトネス研究の方法、日本語学習者研究の方法など、日本語教育に必要な研究方法を学ぶ。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE381	日本語語用論研究	2	1.0	1	秋AB	月2		小野 正樹	言語研究の中でも、20世紀後半から発達した、話者と聴者のコミュニケーションを扱う伝統的語用論研究、事態の認識方法に関わる認知言語学、人間関係維持を重んじたボライトネス理論の研究内容や手法を学ぶ。認知に関わる言語の主観性表現や、聴者や発話の場を鑑みた表現方法について、予め決められた発表者が該当論文を扱う。発表者は論文の要旨を述べ、疑問点や議論したいテーマを設定する。それを受けて、受講者は具体的例を挙げながら、議論し、日本語教育上の問題点や、日本語教育への応用を考える。	01DR719と同一。
OABE382	ICTと日本語教育研究	2	1.0	1	秋AB	木4		伊藤 秀明	ICTを利用した日本語教育関連の文献・ツールを通して、ICTを活用した日本語教育研究についての基礎知識・研究手法について学ぶ。受講者はICTを活用した日本語教育関連の文献やツールの内容を発表し、受講者全体で効果的な点や疑問点・改善点について議論する。その議論を通して、ICTを活用した日本語教育の研究についての理解を深める。	
OABE383	日本語教育実践研究1	3	3.0	1	秋ABC	応談		ルート ヴァンバーレン, 伊藤 秀明, 小野 正樹, 関崎 博紀, ブッシュネル ケード コンラン, 文 昶允	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センターで開講されている、日本語教育コース専任教員が担当する初級レベルの総合日本語から、中級日本語、上級日本語レベルの読む、書く、聞く、話すなどの技能別日本語の中で、受講生自身が強い興味・関心のある授業を、担当教員と相談の上、選択し、授業運営方法、教育方法を学ぶ。授業担当教員の指示に従って教室活動、教材作成に関わる教育実習を行い、実践的日本語教育能力を高めることを目的とする。	
OABE384	日本語教育実践研究2	3	3.0	2	春ABC	応談		ブッシュネル ケード コンラン, 伊藤 秀明, 小野 正樹, 井出 里咲子, 高木 智世, 関崎 博紀, ルート ヴァンバーレン, 文 昶允	日本語教育実践研究1を承けて、受講生は本学で学ぶ日本語学習者が求める日本語教育内容を検討し、初級レベルの学習者を中心に実際のクラス運営を行う。クラス運営は、2~3名から成るグループ単位で行う。指導内容を設定し、その内容に基づいてシラバス作成、参加者の募集とレベルチェック、授業、評価、及び、クラス運営に関する振り返りを行う。日本語教育コース専任教員がグループに分かれて、教育内容、振り返りを確認、助言し、実践的日本語教育能力を高めることを目的とする。	
OABE385	日本語教育実践研究3	3	3.0	2	秋ABC	応談		伊藤 秀明, 小野 正樹, 関崎 博紀, ルート ヴァンバーレン, ブッシュネル ケード コンラン, 文 昶允	日本国内外の日本語教育機関で日本語を教えた経験を持っている学生を対象に、教育を行った教育機関、期間、担当授業内容について、コースコーディネーション、ブレースメント、主副教材作成、学習者のニーズ、シラバス作成、成績評価法、授業の評価の観点から、学内で報告会を開催し、質疑議論を行う。日本語教育コース専任教員が実践内容について、今後の方向性などを助言し、実践的日本語教育能力を高めることを目的とする。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE800	プロジェクト演習1A	2	2.0	1	秋ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	受講者は、自らの研究プロジェクトを指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、そのプロポーザルを発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究、主要な素材を提示するとともに、今後の原着的な研究のための研究計画を提示する。主に4月入学者が受講する。	
OABE801	プロジェクト演習1B	2	2.0	1	春ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	受講者は、自らの研究プロジェクトを指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、そのプロポーザルを発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究、主要な素材を提示するとともに、今後の原着的な研究のための研究計画を提示する。主に10月入学者が受講する。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE802	プロジェクト演習2A	2	2.0	2	春ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	受講者は、自らの研究プロジェクトの中間報告を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究と自らの議論との違いと共通点、主要な素材の分析を提示するとともに、今後の原著的な研究のための執筆計画を提示する。主に4月入学者が受講する。	
OABE803	プロジェクト演習2B	2	2.0	2	秋ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	受講者は、自らの研究プロジェクトの中間報告を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究と自らの議論との違いと共通点、主要な素材の分析を提示するとともに、今後の原著的な研究のための執筆計画を提示する。主に10月入学者が受講する。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABE804	プロジェクト演習2C	2	2.0	2	秋ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	プロジェクト演習2Aまたは2Bをふまえ、指導教員(複数)との討議や協議をしながら原稿的な研究を行いつつ修士論文の執筆を進め、修士論文を提出した後は、その内容に関して口頭試問を行う。主に4月入学者が受講する。	
OABE805	プロジェクト演習2D	2	2.0	2	春ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	プロジェクト演習2Aまたは2Bをふまえ、指導教員(複数)との討議や協議をしながら原稿的な研究を行いつつ修士論文の執筆を進め、修士論文を提出した後は、その内容に関して口頭試問を行う。主に10月入学者が受講する。	